人は環境をつくり
環境が人をつくる
キーワードは
MOH（もおっ）

M→もったいない
他の生命を奪って得たものを使わせて頂く

O→おかげさま
人は一人では生きられない、環境によって生かされている

H→ほどほどに
欲はほどほどに、良き環境を作り上げるために

M·O·H 通信

創刊準備号

「MOH」のマーク ＝ 牛

牛は環境の象徴ともいえます。牛糞はメタンガスになり、肥料にもなります。大地を作り、食物を育て、生物を養います。私たちは命の源ともいえる、牛を「MOH」のマークとし、循環型社会の象徴とします

「循環型社会を目指す～MOHの会～」の発足に当たって

代表　森 建司

20世紀型社会は経済至上主義の時代であった。科学技術の進歩とそれに伴う工業や流通の発展は、世界的なスケールで人々に物による恩恵をもたらしたが、同時にバランスのとれた自然との共生社会を破壊した。経済至上主義とは物の豊かさを最高の幸せとして捉え、その対極にあるものの価値をほとんど消し去ろうとするものである。人々の価値観を情報操作で画一化して、特定のものに集中させようとするマーケット戦略は個人の人生観、社会観にまで侵入し、その独自性、不可侵性まで奪って行った。このことによって人々は哲学的な意味の自己をなくしてしまった。

今こそ新しい時代として循環型社会を作ろうとしているわれわれは、自己を証明する、こころとか思いを取り戻さなければならない。死生観とか人生観、先祖とか子孫、生涯をかける志、自己を自己らしく生き抜くための人生哲学など。そしてそれは自然との共生社会を目指すものであり、人としての真の生き様を問うものであらねばならない。

この実現のために
「循環型社会を目指す～MOHの会～」を設立する。

《 MOHの会概要 》

■目的
(1) 循環型社会構築に向けた意識改革
(2) 浪費型社会通念の脱却
(3) 人生哲学を学ぶ

■事業
(1) 意識の普及
(2) 講演会、勉強会、シンポジュームなどイベントの開催
(3) 通信の発行及び出版

■会費
(1) 通信購読料　年間3,000円
(2) 入場料徴収 随時
(3) その他

■事務局
〒526-0111 滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3
循環型社会システム研究所（MOHの会事務局）
TEL.0749-72-5277　FAX.0749-72-8181
e-mail:tsujimura@shingoshu.co.jp
代表：森 建司
担当：辻村 琴美

愛東町環境チャレンジ講座ー中級編

実践力を身につける

～一人一人の考え方を変える～

講演／「21世紀の幸福論」循環型社会システム研究所 代表　森 建司

■平成15年12月10日（水）19時30分～21時30分
■愛東町じゅびあ会議室

琵琶湖の東側「愛の田園（まち）」愛東町は豊かな自然と、マーガレットステーションで有名。環境への取り組みも積極的で"菜の花プロジェクト""環境チャレンジ講座"への取り組みなど町民の意識も高い。

そこで、「環境チャレンジ講座～中級編～実践力を身につける」の中で、12月10日と18日に「21世紀の幸福論」と題した講義と、グループワーク、ディスカッションをお願いした。税務住民課さんは、快くお引き受けいただき、参加者の方も活発に発言してくださった。まさに、愛東町の皆さんに助けられた講座だった。

使い捨ての暮らし→循環型の暮らしへ

経済至上主義社会の行き着く先は、われわれに何をもたらしたか。大量生産・大量消費・低価格競争がもたらしたもの→環境破壊、使い捨て文化、マーケティグによる生活者意識の画一化。環境保全と無限の経済成長の両立は困難。"収入半分、支出半分、幸せ倍増"これが将来へのテーマになろう。そのためには循環型社会システムの構築が必要。エコライフの実践（エコ村ネットワークが実証中）と意識の変革が求められている。

企業の成長が環境破壊を増進する

現在から未来にかけて、アメリカのウオールマートでは、企業間競争で世界を席巻し、単品で30億個以上にのぼる加工食品の開発に成功していると言う。大量主義による企業間競争に負けると企業の存続は危うい。実はこれが、環境破壊の根源だ。家は三代かかって建てる少し前を振り返ろう。私の祖父は先祖の土地に家を建てた。腕のいい棟梁に頼み、来てもらうまでに3年待された。柱に使う木材は山に入ってたち木から注文した。壁土は山の土を自分で練った。生涯を賭けて思い通りの家が建ったとき、息子に言った。「お前は庭を造れ」。小さかった孫の私に言った。「お前は道具を買え」。そして私たちに言った「家は三代かかって建てるもの」。この言葉が今になって身にしみる。実際は親父は会社を作り、私は家電製品を買ったのだが…

手作りの価値観へ

大量生産を否定する時代がやってくるだろう。名人上手といわれる、手を下して物をつくることに価値観が見出される。世の中の意識の歯車を今、戻さねば、環境ばかりか、家庭や、社会も壊れかねない。言葉を見直そう「もったいない・おかげさま・ほどほどに」言葉が人を生かしもし殺しもする。昔から言われていた「辛抱・根性・気配り」「一生ものを持て」（道具、和洋服、装飾品など）「後からくる人のことを考えろ」「下駄をそろえろ」「親の背を見て子は育つ」。

これらの根本にある精神が"もったいない、おかげさま、ほどほどに"に集約されるのではないか。頭文字をとって、MOH。ISOでいくら数値目標を決めても改善されないのは、口に出さないから。「もったいない」と口に出すだけで、改善される。まず意識を変えること。

グループディスカッション

講義を聴いた後、13名の参加者でグループワークを実施した。講義を聴いて心に引っかかったことを、ランダムに抽出した。大別すると、「言葉」「疑問」「もったいない」「おかげさま」「ほどほど」に分類される。内容は次のとおり。

〈言葉〉

・環境の話はたくさん聞いてきましたが、もったいない、おかげさま、ほどほどにという言葉は、初めて聞きました。よく聞くと、なるほど、とこの言葉が身にしみました。環境にあてはまる言葉だなあと思いました。環境の基礎となる言葉だ。

・後の人のためにお風呂をキレイにしてあがる。すると次の人も気持ちよく入れる。環境もこれと同じ事と言われました。なるほどと思いました。

・自分の「もったいない」は、お金にかかわることだけだった。環境について「もったいない」と感じたことはなかった。

・MOHの言葉は私も大好きです。そして「感謝の心を忘れずに」を後世に伝えたい。

・お金を払えば何でも手に入ると思っている。物の有難さをわかっていない。金額だけで判断している。今の大量消費が当たり前のことと思っている。悪いことだと判っているが甘えているところが多々ある。資源を大事にしていない。

・「安いから捨ててもいい」と思うことが良くある。物を大事にしていない。まだ使えるのに捨ててしまう。

・子どもの頃と比較すると「もったいない」と口に出す回数が減ったと思う。子どもに伝授できてないのでは？

・現代の人たちは、お金の価値に対して意識がうすい。

・物を大切にしなさい、もったいない。と、つい言葉に出てしまいます。

・物を大切にする（なかなか実行できない）→電気は子どもの頃から意識があったがガス、水道は意識が低い

・親の背中を見て子どもは育つ（次世代に良い習慣、環境をつなげる）

・ハウスメーカーと職人さんの話に感動。ホームページに載せてもいいですか？

〈疑問〉

・「循環型社会」という言葉をよく耳にするが、家庭で実践できることがあるのか？省エネだけか？行動ができていない。

・エアコンを買うとき、あまり使わない部屋に取り付ける場合、省エネのものを買うか？省エネ機能のない安価なものを買うか？

・今までの科学は便利を主たる目的としていたが、環境を優先的に考えて開発してるため、買い換えることが環境を壊すとは思わない。

・家庭で、電話やパソコンの機能が多すぎて使いきれない。

〈Mもったいない〉

・テレビ、電灯のスイッチはこまめに消す。

・お風呂のお湯を洗濯に使おう

・電化製品の新製品に目を奪われて、もったいない

・使い捨ての品物が多い

・食べ物を捨てること、オムツ、テレビのつけっぱなし

・歯磨きの時水道は止める

・お風呂の間が空く、灯油の無駄

・簡単に物を買う、100円均一とか…

・もったいないと思うときがあるが、体裁を気にして言えない時がある（食事を残す、古い物は着ない）

・お返しの品（祝い、供養）は小屋にしまってある。

・着ない服がある

・レジ袋品物別に包んで渡されるがいらないと思う

・食器類、もらい物が多くあるのに、新しいデザインが出るとかってしまう（コーヒーカップ）

・ゴミを少なく

・子どものノートの使い方

・食べ物を腐らせる。纏め買いをして使わずに捨てる。

・安い衣類を買って、着ない。

・物があふれてもったいない。昔を振り返ることを現代人はしない。

・アイドリングストップ（なかなかできなくて）

・洗濯水の無駄。出しっぱなしする。

・省エネ、省資源（愛東スマートに参加しているが実行できていない）

・料理は圧力鍋を使い、野菜は捨てるところ少なくしています。電気はマメに消しています。買い物袋を持参しようと思います。

・食べ残し、汁物はポリバケツに入れ畑に入れています。野菜つくりも低農薬で10数年前から木酢酸とHB101を使用しています。

〈おかげさま〉

・健康でいられる

・家族があるから仕事（したい事）ができる

・元気でいること

・「おかげさまで」ということの回数が減った。謙虚さがなくなったのかな

・人のお世話になっている、助けられている。

・「おかげさま」子や孫に伝えたい言葉

〈ほどほど〉

・子どもの勉強

・食べ物作り過ぎない、買い物は買いすぎない（ほどほどに）

・結婚式など派手になりすぎ、ほどほどに。

愛東町環境チャレンジ講座ー中級編

実践力を身につける

～一人一人の考え方を変える～

（宿題）MOHを広げよう

実践力を身につけるには、自分のテーマを持ち、誰かに伝えることが必要。
そこで、宿題レポートをお願いした。

〈テーマ〉日本建築とハウスメーカーの区別化

〈氏　名〉村山　すず子

〈内　容〉”もったいない“,”おかげさま“,”ほどほどに“,”地上資源“色々な講義を聞かせていただきましたが、やっと私の探していた答えが出ました。軽い衝撃を受けました。

ハウスメーカーは大変よく研究されて、見た目もすばらしく、住んでいても快適ですが樹脂や鉄骨が使用されており、大量生産です。日本建築は地上資源で構成されていて、地球にも、人にも優しい技法です。

「三代にわたって、家を完成する」と言われましたが、何百年も耐えられる日本建築の良さに気づいてほしいのです。

追伸　私は剣道をやっています。技は他の先生にお任せして、こころの部分を伝えようと私なりに努力しています。エコの講座に出席して、日本人の心みたいなお話が聞けるとは夢にも思いませんでした。すばらしい時間でした。

〈テーマ〉いきいき元気のある後世の子ども達であるように

〈氏　名〉森下　靜子

〈内　容〉森先生の”MOH“の言葉、環境にぴったり。私も以前から、もったいない、おかげさまで、ほどほどに、の言葉を使うように心がけている大好きな言葉です。捨ててばかりはもったいない。この品は何に使えるのか、まず考え工夫。たとえば、生ゴミ&汁物。汁物も流してしまえば、簡単で楽です。しかし、川や、琵琶湖を汚します。捨てるのが、もったいないと思えば、畑の肥料になり、川や琵琶湖は汚れない。心の持ちようで害にもなり、一石二鳥の得にもなります。

そして、あなたのおかげで、周りの皆さんのおかげで、今、自分が生きていられる。生活ができる、がんばっていけるという、”おかげさま“の感謝の気持ちも大切。食べ物でもおいしいからといってがむしゃらに食べると胃をこわすのと同じで、欲だけで走るとかえって逆になることもあり、”ほどほどに“と思うことが人間の心をきれいにしてくれることではないかと思っています。

この心が子や孫にそして後世に伝えられていけば幸い、と思っている今日この頃です。今の新しい時代の流れに乗っていくことも大事かも知れませんが、古い物の中でも、これだけは、大切にしておきたいと思う心も大切です。新しい物の中からと、古い物の中から自分に必要とするもの。これだけは、ずっと残しておきたい、これは新しい物を求めたいという、見極めの心と、判断できる力を身につけていけたら、すばらしい環境の社会、循環型社会が生まれると思います。

〈テーマ〉各種催し時の発泡スチロール製容器の使用禁止

〈氏　名〉小椋　喜八郎

〈内　容〉現在、各種イベント実施のとき、うどん、おでん、その他の容器に発泡スチロール製の容器を使用しているが、私たちの自治会で初の試みとして環境に配慮して回収できるPP製（ポリプロピレン）の容器を使用した。箸、紙コップ以外は廃棄することなく成功を収めることができた。継続とこの活動の普及を続けたい。

〈テーマ〉紙の使い方

〈氏　名〉田中　蓉子

〈内　容〉私は11月まで会社で働いていました。コピー用紙の使用枚数がとても多く、無駄も多かったと思います。おそらく、どこの職場でも状況は同じではないでしょうか。紙となる資源は、ものすごい速さで失われているのではないでしょうか。空恐ろしい。職場では裏面使用をするよう心がけていました。家庭では、どうでしょう。油ふき、キッチンペーパーなど、惜しげもなく使い捨てています。以前はこんなに、紙を使っていなかった。

”もったいない“,”ほどほどに“,”しなければ。近い将来、本当に資源が無くなるかもしれない…

〈テーマ〉後のことを考える

〈氏　名〉清水　美津子

〈内　容〉

1、資源ごみ＝ビン、缶、スチロール、ペットボトル、トレーなどゴミに出すときは、きちんとルールを守って出す。（無駄な選別をしなければならない）

2、物を送るとき＝過剰な包装はやめる（もらった人のゴミが増える）

3、物を大事に使う＝車、農機具、洗濯機、（壊れればゴミ）

〈テーマ〉自然に帰る

〈氏　名〉西村喜代子

〈内　容〉野菜を収穫するには無農薬というわけにはいきませんが、農薬の量を最小限にするよう心がけています。薬をやっても、次から次へと強い虫が出るような気がします。畑の土を改善し、昔のミミズがいる土に、戻さなければ… 枯葉、落ち葉、わらなど、ゴミといわれるものを土に混入して、良い土ができればいいと思う。落ち葉や枯葉を還元すれば、町もきれいになる。

〈テーマ〉私自身からはじめてみよう

〈氏　名〉木村しげ子

〈内　容〉一番身近な人たち、家族から伝えようと思ったけど、やっぱり私自身から考えようと思いました。

MOH！！その中で一番できそうで大変なM（もったいない）を考えると今の生活に慣れきった中で、少しでも考えなおすことができれば、O（おかげさま）という感謝の気持ちも素直にでき、H（ほどほど）にという、良い欲につながると思う。

〈テーマ〉MOHを広げよう

〈氏　名〉木村靖子

〈内　容〉M（もったいない）を家族に広めた

家族＝①無駄な電気・水は止めよう ②お風呂はできるだけ短時間に入ろう ③安いからと衝動買いをせずもう一度考えてから買う

私＝④一週間に一度は冷蔵庫の掃除（買い物の把握） ⑤買い物はメモに書いて ⑥安いからと買い込まない ⑦子どもに「もったいない」を言う ⑧周りにMOH運動を広める

〈テーマ〉なんでこんなにゴミが増えるのかな

〈氏　名〉森田京子

〈内　容〉毎日一回は「あーもったいない」と思っている人が多いと思います。でも、そこで、ちょっと努力してみたら「もったいない」と思わなくて済むことがあると思います。本当にゴミがよくたまりますが、ゴミを減らそうとする事はこれからの環境に繋がっているなと思います。少しでも多くの人が毎日の暮らしからゴミを減らすことを実行していければ環境も良くなると思う。

愛東町環境チャレンジ講座ー2

「経済至上主義社会は変えるべきだ!」

～科学は万能ではない～

講演／森 建司

■平成15年12月18日（木）19時30分～21時30分
■愛東町じゅぴあ会議室

第2回目の講座。皆さんの宿題を読み上げた後、講義に入った。皆さんの熱心な取り組み姿勢に感銘を受けた森代表が、「科学は万能ではない」をテーマに講義した。

経済至上主義が環境と心を破壊した

今日は、私がなぜ、こういう活動をしているかを、お話しましょう。まず、エコ容器包装協会。こちらは平和堂さんも加入されており、こちらの講師でもある、龍さんとご一緒しているわけですが、大量にモノをつくり、売る場合の包装の有り方について考えようというので始めた会です。ここは議論が分かれるところですが。平和堂さんで3万アイテムの品揃えがあるわけです。それらに包装材料は必ず使用されています。アメリカのウォールマートは単品で30億個以上売れる商品が有るそうですが、これらに使われる包装資材はすべてゴミになります。これは車の運転中に食事ができる加工食品で、片手で食べてポイッと容器は捨てる。30億個もですよ。考えモノではないでしょうか。

増え続ける容器包装、エコ村の意識革新、蝕まれる子どもの心

環境は市場経済の発展によって、破壊されたと言っても過言ではありません。生活の質を維持しながら、包装ゴミの環境負荷をどうしたら減らせるかを追求するためにエコ容器包装協会は定期的に会合を開き、流通業者、製造業者、包装供給業者、官庁、市民運動家などを招き運動しています。しかし、実際のところは成果が上がっていません。容器リサイクル法ができ意識が高まった後も、包装資材は増える一方です。供給側の業界の限界が見えてきました。「暮らす人の意識を変えないことにはどうにもならない」のが現実です。

またエコ村ネットワーキングは小船木にエコ村をつくり、バイオマス、エコハウスを建設します。国からの調査対象として補助も受けております。県立大学の仁連先生をはじめとして、産・官・学・民の集大成事業として動いております。湖北にもエコ村を作ろうという動きがあります。人の交流と住民増加で地域振興を図ろうとしています。しかし、湖北は自然があり、産直もある。もともとエコ村のようなところなのに、人が増えればゴミも出るじゃないか。という声も聞こえます。確かに、エコ村建設は産業界、自治体の考え方かも知れません。エコで産業を興そう、という。ですからここにも、「エコ村を作る前に暮らし方を変えればいいじゃないか」という、考え方が生まれてきます。

経済至上主義は環境破壊以外にも人の心の原点と言うようなものも破壊しています。家庭崩壊を例に挙げますと、農村部では独居老人が放置され、都市部へ行けば親が蒸発してしまって子供が放置されているところもある。両親や祖父母と同居していてもうまくいかないこともある。皆が経済中心に考えていて、こころがばらばらになっている。子どもは親の背中を見て育つ。そして、そのこころが代々伝わり子孫が繁栄していく。心の問題を中心に考えるべきです。

一生物をもつ意義

モノ自体に普遍的な価値があるのでしょうか？　パソコンを利用している人と、そうでない人では、パソコンと言うものの価値がまったく違います。物の価値は使う人の価値観、意識によってまったく違うものなのです。

それなのに一体、何時ごろから使えないモノでも、使い切れないモノでも、モノを沢山持つことが幸せだと信じ始めたのでしょうか。かつて7月の第一日曜日は”大掃除の日“でした。部屋に物が置いてあると、畳みが干せないから必要最小限の道具を”一生物“といって大事に使った。生きてるうちに形見分けし、死ぬときはタンス一本に整理して死にたいというのが望みだった。

私の家もガラクタだらけです。電気製品、アルバム、本、洋服などが山程ある。今やいかに捨てるかというやり方や技術が尊重されるようになりました。

経済社会は持つ者が、持たざるものを支配することによって成り立っていると言われています。今ではそれは普遍的なことになって、持つ人を尊敬する事が当たり前の世の中に成っているのではないでしょうか。

傷つくのはチャンス

科学技術の発達で何でも観察し、分析し、証明しようとする。科学・技術全盛の時代です。人の心、自分の心まで分析しようとする。

生涯忘れられないほど傷ついた人にどんな対応の仕方があるか、と言うことで議論をしたことが有ります。心理学者がカウンセリングをする時は「人間には”他罰型“と”自罰型“がある、そこを良く考えて対処する必要がある」これは分析し、検証する科学の世界の答えの始まりです。

私は「傷ついた時こそが君の大きなチャンスだ」と。それが全てです。その傷が大きければ大きいほどナニクソッと立ち上がる力が大きくなる、その原点になると思うからです。

吃音が私の原点

実は私は、幼少の頃、ひどい吃音でした。そして子養子に行った訳でしたが、行った先は商家だったのです。ある日、お客様の所に用事をいいつけられて、出向きました。ところがどもるので言葉が出ない。恥ずかしくて余計どもる。最後に先方が紙を出してくれてそれに用件を書いて渡してきました。小学生の頃です。その後何日かして寝ていますと、隣の部屋で義理の両親が話しをしています。私は寝た振りをして聞いてしまいました。義母が「あの子どもってしゃべられへんかったって。ようあんな子、養子したねぇ。返しはったらどうって言われた…」義父は「そんなこと心配せんかてええ」。私はその時、寝たふりをしながら、そして泣きながら、それを言いつけに来た「あの糞爺死ね！」と思っていました。しかし思えばこれが私の原点だったんです。ここで「今に見ておれ」という気持ちが生まれました。

アメリカのG・E社を創設したジャック・ウエルチ氏は子どもの頃、やはり吃音でしゃべれなかったそうです。お母さんが「あなたの頭の回転の速さに追いつく口はないわ」といって、誉めたと言います。劣等感でなく自負心を持たせることが、大いなる成功を生み出す秘訣だと言うアメリカ風の考え方だったのでしょうか。

田中角栄氏も吃音で政治家になるために、新潟の海に向かって浪曲をうなって治したんだそうです。これは心の問題ではないでしょうか。科学的に分析するのではなく、精神力の世界に入って、戦う事が大切ではないかと思います。そうして、確固たる自分の人生観を持ち世の中をすら変える力にまで育て上げたと言う事では無いでしょうか。

祖母の哲学が私を育てた

わたしの祖母は文盲でしたが、その中で子どもを皆、商売人に育てました。口癖は「人間はカンジョウの動物やから、ソロバンを忘れたらあかん」と言うのです。感情と勘定とを間違えていたんですね。「そら違う。そのカンジョウ言うのは怒ったり笑ったりする感情の事や」と子どもの私は言いましたが聞きません。「商売人は損して得とるそう言う難しいカンジョウも出来なあかん」これは多分祖母の哲

学でそれで私たちは商売人に育ちました。

20世紀はモノを追求した時代です。どうすれば安く製造できるか、改良出来るか、ものを研究した時代です。マーケティングの世界では、人の心も数値化して分析をした。これでは世の中は間違った方向に進んで行くかも知れません。価値の本質をモノから心へ移す必要があります。自己の思いを確立する、今はその人間らしさが求められているのではないでしょうか。

倒れた時、人生の目標に気づいた「MOH」だ

私は、今年脳梗塞で倒れました。ある意味で生死の境をさまよったような時も有ったわけですが、その時、自分の人生について考える機会を得ました。経済至上主義は「消費は最大の美徳である」と謳っています。その結果、私たちは豊かになりました。そしてモノによる恩恵は充分に享受したわけですが、反面、自己の思いの中の精神性が希薄に成り、本当にこれで悔いは無かったのか、自己反省をし、「人生の目標をどこに置くか、を考える時が来たな」と気づいたのです。私の思い（かつこよく言えば〝志〟）を満たすために今後の人生を使うべきだと思ったわけです。

人生哲学、哲学は思い、価値判断の基準、いかに生を全うするか、を自分の言葉で表現することが大切。自分の思いを人に伝えると、新たに気が付くこともあります。この世界ではみんなが先生で、皆が生徒であります。

間違いなく、時代は浪費型社会から、循環型社会に向かっています。「接ぎのあたった靴下履いてると恥ずかしい、と思うなんてねえ」と語り合える場が必要なのではないでしょうか。そういう、MOHの同志を募り運動が出来れば…というのが私の夢です。

参加者とのディスカッション

講義を聴いた後、皆さんとディスカッション。講義の感想や、幼い頃の体験、職場の出来事など、熱く語りあった。

〈上田 仁志〉私は役場の健康福祉課に勤務しています。なんとなく、来ました。いい機会でした。今まで話を聞くだけで、行動にうつせていない。まず、家で何ができるかなと思っています。やりやすい省エネに取り組みたい。

〈野村 正次〉私も感激しました。主婦の方と意識が違う。男はもったいないことをするのが通常の毎日です。生活に密着したMもったいない、Oおかげさま、Hほどほど、の意識。しっかりした経験に基づいたお話に感動しました。仕事で環境に携わっていますが、取り入れて行きたいと思います。

〈平柳 美恵子〉子どもが成長しましたので、環境ボランティアをしたいと思っています。エコイフで取り組んでいる、石鹸作りにも参加しました。いろんな講座に参加したいと思っています。ゴミを分別する際お菓子袋（アルミ箔）を燃えないゴミに出すのが面倒です。何か改良できませんでしょうか。

〈森 建司〉アルミ蒸着は、賞味期限を延ばすために有効な資材です。燃えカスが残るため燃えないゴミとして処理しています。現段階では、代替資材はないのではないでしょうか。

〈苗村 良子〉「もったいない」の話は初めてお聞きします。私も、百円ショップで子どもや若い人がたくさん買ってると、もったいないなあって口に出てしまいます。子どもも口にするようになります。あまり、頻繁に言うのも気がとがめるな、と思っていましたが、通して言い続けます。

〈清水 美津子〉先生のお話のなかで、先祖に対する思いやりという言葉が出ましたが宗教の勉強をされているんですか。

〈森 建司〉してないです。先祖を大切に、子孫を残すという思想が薄れることを危惧しているんです。宗教家の方も同じ事をいっているんでしょうね。

〈清水 美津子〉会社に吃音の方がいるんですが、言い返せなくて物怖じしてしまうんです。今日の話を言いますわ。

〈田中 蓉子〉「もったいない」の話はグサッと来ます。わたしの母は102歳で亡くなりました。食事のうどんに使う刻みネギを100円で買ったのですが、「畑にあるのに、100円も出して買ったのか」と注意されました。多くの兄弟を育てた母ですので、厳しかった。

〈西村 喜代子〉ゴミの中で暮らしております。古い物でも使っています。身の回りを整理しないといけないなあと思いました。

〈堤 昭子〉年齢的に先生に近いのでお話はよくわかります。下駄はそろえて、と親から教えられました。身に付けば習慣になります。ボランティアグループに入る事が好きで、野菜の作り方を習っています。アドバイザーにも挑戦しています。米のとぎ汁は寒サボテンにやっていまして、きれいな花をつけてくれます。チャレン講座は積極的に参加していて、孫にも伝えています。おかげさんの気持ちを胸に人生を歩んでいきます。

〈森下 靜子〉父親が厳しい人でした。新聞を踏むと足をたたかれました。「用事は〝ハイ、ニコ、ポン〟で受けなさい」（ハイと返事して、ニコっと笑って、ポンと立つ）が口癖でした。

私が19歳の頃、家が焼けました。母は皆さんから「先祖を粗末にしたんやろう」と注意されました。しかし近所の皆さんや親戚からは、いろんな物を頂戴しました。困った私たちを助けてくださったんです。お米も頂きました。焼けた一俵缶が十本残っていたのを見つけた父は、「この米（蒸し焼きになって、煤けた米）がしまえるまで、頂いた米に手をつけてはいけない」といいました。皆様に恵んでいただいた米は大事にとっておきました。おかげさまで焼け残った蔵で住まいをし、何とか家も建て直しました。子どもの頃の苦労をMOHのお話を聞いてて思い出しました。小さい頃の苦労は買ってでもセヨといいます。母が習慣としていた、お供えは嫁が受け継いでくれています。

〈木村 靖子〉軽い気持ちで参加しましたが、びっくりしました。環境の奥の深さを知りました。家で1週間もったいないの話をしましたが、「なに、言ってんの、いまさら」という感じでした。ずーっと言い続けていると子どもたちは一つの部屋にいてくれるようになり、電気代が節約できたかな、と思っています。

〈木村 しげ子〉平尾の〝ふれあいフェスティバル〟が報知新聞に掲載されていて、私たちの顔写真が掲載されました。森田さんが「ゴミを減らすため割り箸、紙コップ、紙皿を持参してもらおう」と発案され、奥村さんに教わりましたので、ご恩返しのつもりで参加しました。つい、「もったいない」という言葉が、「けちと思われるとカナン」と思ってしまいます。やっぱり、永遠に忘れないように心に刻みつけていくこと、子どもに言うことをしたいと思います。

〈森田 京子〉木村さんに誘われて忙しいてカナンと思ったけど、きてます。ふれあいフェスティバルの反響があってうれしいです。印刷会社に勤務していますが、再生紙が高くて、なんとかならないでしょうか。

〈森 建司〉高いものを買うことに誇りを感じるようになれば、いいですね。

〈奥村 伊佐男〉中級講座2回目を受講して、環境の幅の広い哲学に気づかされました。自分にはないな、と。自論をもっていないといけないのですが、貫き通す意思があるかな？流されない意思、哲学、人のやさしさ。平尾の皆さんに声を掛けていただけて、うれしく思います。お金をかけた政治をすると良くなるのでしょうが、私は「やさしさ」で環境に取り組んでみようと思います。

〈辻村 琴美〉私も、皆さんの率直なご意見に感動しました。MOH運動や、このような講座のコーデュネーターをさせて頂いたこと、素敵な皆様にお会いできた事。大変幸せに思います。家族にも、まだ見ぬ人たちに、皆さんの語りを伝えて、広めることがわたしのライフワークと認識しています。MOH通信にまとめ、発行し、このMOHの輪を広めたいと思います。そして、シンポジュームを開催し、ホームページを作り、「MOHの言葉集」を出版することが夢です。実現に向けて、皆様のご協力をお願いいたします。本日は、ありがとうございました。お疲れ様でした。

生き方を変えるひとこと

皆さんが日頃、心の支えにしている言葉を集めました。
“生きかたを変えるひとこと”。
一人に一つ言葉を持っておられます。いずれも、珠玉の言葉です。

「ゴミ活かせば資源」
小学生の時、よく耳にした言葉ですが、これからの循環型社会にぴったりな言葉だと思います。「使ったものはゴミ」ではなく、「次につながる資源」と捉えることで誰でも小さな活動から、循環型社会に貢献できると思うからです。
〈日本紙パルプ商事(株)秦 圭祐 23歳〉

「『愛する心』をとりもどす」
日本人は戦後50年の間に「愛する心」を失ってきた。たとえば、愛国心、郷土愛、母性愛、夫婦愛、隣人愛、愛社精神…この結果日本人の心から、使命感、倫理観が失われ、自己中心的な人間が増加した。そして最近、個人、企業内で常識では考えられない犯罪が発生している。日本国の正しい未来像を示して教育を見直すことが対策のひとつと思う。
〈宮地 潔 74歳〉

「ご恩返し(を忘れない)」
親へのご恩、子どもへのご恩、すべてのことへのご恩返しをするのが、社会のモラルの基本と考えます。
〈沢田 英子 47歳〉

「うめよ、ふやせ」
少子化、日本が減びる、昔に返るMOHは特に若い方に望む

「『人』と言う字はもたれあい」
生き方を変えた言葉ではないが、常に信条として「人」は「人」によって生かし、生かされていることを心するように努めています。物もまた、同じであると考えます。
〈秋野 久子 54歳〉

「人間万事塞翁が馬」
今まで、嫌な事があった時、マイナス思考で落ち込んでいた。この諺を知りプラス思考で考えられるようになった。子どもの進路も学校の成績だけで将来を考えてはいけない、と思うようになりました。クヨクヨ考えずに生きて行きたい。
〈平柳 美恵子 51歳〉

「まずは取り組んでみる」
はじめからあきらめて、努力もせずに結論を出すのは、嫌です。まずは取り組んでみて、その過程を自分で体験して判断する。これは子どもにも言っています。
余談=最近の子育てを聞いていると「エエッ!」と思うことが良くある。親がもう少し親の勉強しないといけないと思うし、うるさいオッサン、オバサンでないといけないと思う。2回の講義を聴いて確信がもてました。
〈木村 靖子 43歳〉

「やさしい心」
今まで考えていなかった言葉です。やさしい心。この席で聞かせていただいて、心の奥で、ビビーと残りました。
〈木村 しげ子 44歳〉

「『現実大肯定』『笑顔優しさ』」
つらい事があると現実から逃げようとする自分なので…現実をしっかり見つめて立ち向かえるように本で読んだのですが、どんな人と友達になりたいか…笑顔、優しさ、明るい人になってお友達を増やしたいなと思います。
〈村山 すず子 48歳〉

「『循環型社会』できることから始めよう」
何でもある時代。ボツボツ気長に。やり始める気持ちでと思ったものですから。
〈堤 照子 68歳〉

「MOHの言葉を大切にできる事から始めよう」
笑顔、優しさ、感謝の心を大切に健康で、挑戦したい。
〈森下 静子 59歳〉

「1+1=2 2+2=4 この数よりも+アルファーが大事!」
結婚のため退職するとき、上司から送られた言葉です。私は意外とキチンとしていないと嫌な性格なのですが、この年になって、その言葉の意味を思い知るようになりました。「そろばん勘定」ではありませんが、なんとなく同じ心構えかなと思います。
〈西村 喜代子 60歳〉

「相手を変えることはできない、自分が変わっていかなければ」
長年連れ添ってきた夫でも生き方(考え方)は変えられない。自分の考え方を変えなければうまく生活できません。相手の話を聞いてから行動するほうが良いと思う。
〈田中 蓉子〉

「相手の気持ちになって考える、話す。」
自分が言われた場合、された場合、どのような気持ちになるのか?嫌な気分になるのだったら、言わない。そういう態度はとらない。一日が面白くないと思います。
〈清水 美津子 54歳〉

「相手の身(立場)になって考える」
道を歩くと、タバコの吸殻、空き缶、ゴミが捨てられている。どう思って捨ててはるのやろ。嫌だと思うので、私はしない。
〈苗村 良子 57歳〉

「人の振り見てわが振り直せ、子どもは天からの授かり物」
なぜかな?頭に出てきました。
〈森田 京子〉

〈続々誕生・MOHの会〉

★滋賀県立大学・MOHの会（開催済）
第1回講演&ディスカッション
・1月21日（水）滋賀県立大学

☆びわ町細江・MOHの会
第1回講演&グループディスカッション
・4月3日（土）19時～　細江公民館

あなたもMOHグループを作りませんか？

仲間を集めて下さると、講演とデイスッカッションをいたします。詳しくはお問い合わせください。

●問い合わせ先は、下記「MOHの会事務局」まで

《1号予告》

特集：滋賀県立大学MOHの会
俳句：MOH俳句発表
寄稿：作家 今関信子さん（予定）
連載：MOH物語
漫画：しみず やすお（予定）
写真：ちょっとショット
取材：バイオビジネス創出研究会
雑談：こぼれ話

「編集後記」

人が人であるためには、自己をキチンと持っている必要がある。何かを前にして、おかしいと思えばおかしいと言うべきであるし、これはあってはならないことであると思えば、そう言うべきである。多勢に無勢で勇気が無くして言えないのも問題あるが、良いか悪いかの基準を持ち合わせず、常にそのときの体制に流されて判断していると言うのであれば、それはまったく困る。それが第一点。

環境問題は人類の存在を脅かしかねない状況にあるが、それが浪費型社会の、経済至上主義型社会の「意識」によってなっていると

すれば、今こそ、その「意識」を変える必要がある。これが第二点。その「思い」で始めたこの運動に大勢の方々の賛同が得られた事に大感激。そしてMOH通信第一号が出来た事で大発奮。　「建」

★なんとも、けったいな通信が出来上がりました。もーってナンヤネン！んで牛ヤネン！って声も聞こえます。ほんとにねえ。広い世の中、妙な事を一生懸命やる人間がいても、ええのとチャいますか？とりあえず、船を出してしまいました。乗船者求む　「琴」

M・O・H通信　Vol.1
2004年00月0日発行
●編集・発行/循環型社会システム研究所　MOHの会

MOHの会事務局
循環型社会システム研究所（新江州(株)内）
〒526-0111　滋賀県東浅井郡びわ町川道759-3
TEL.0749-72-5277　FAX.0749-72-8181
email：tsujimura@shingoshu.co.jp　担当/辻村

《MOHの会》入会受付中！

あなたも「MOHの会」に入会なさいませんか。MOH通信の年間購読（4回）3000円で、会員になれます。会員特典として、MOH通信、会員交流会、講演会のご案内をいたします。ご近所お誘い合わせの上、ご入会ください。活動やこの通信についての、ご意見もお聞かせください。
あなたのお名前、年齢、郵便番号、住所、電話番号、fax（あれば）、e-mailアドレス（あれば）、ご意見をご記入の上、お申し込みください。通信をお送りします。申込書をfax、郵送、mailでお送りください。

キリトリ線

《MOHの会》入会申込書

フリガナ お名前		年齢	
住　所	〒		
電　話		FAX	
メールアドレス			
ご意見			

『MOH俳句』投稿募集のお知らせ

5・7・5の言葉で表現する俳句は、私たちが世界に誇れる、表現方法です。この俳句を使って、MOHの世界を展開してください。下記の用紙に作品を記入し、郵送、fax、mailでお送りください。通信に記載させていただきます。力作をお待ちしております。お名前、ご住所、お電話をお忘れなく。

キリトリ線

〈お名前〉		
〈ご住所〉 〈お電話〉		